

ACORN  
企画・制作=エイコーン

# 松井須磨子

## 言わせて! 今日の芝居 ◎五十字劇評 No.47

### 【六〇代】

▼会場で見回して、たくさん座っている。嬉しいのと、不安が入り混じったのが正直な気持ちです。集中した観劇は、思わず素晴らしかったと声もれる。(女性)

▼新劇女優一号となり自分の生き方を求めた松井須磨子の人生が、ピアノの伴奏とともに語られた。栗原小巻の歌と演技がすばらしい。「人形の家」のノラや「復活」のカチューシャ等の舞台のセリフが、彼女の人生と重なっていた。衣装を変えることも効果的だった。島村抱月というパートナーを失い、人生を閉じた須磨子の人生と、その時代に思いを寄せました。(女性)

▼一人の人間として懸命に生きた松井須磨子。舞台に掛けたその生涯は、栗原小巻さんと重なります。美しいピアノの旋律にのった小巻さんの若々しい歌声。もう一度見たいと思うほどでした。しかし、別の日に見た会員からは携帯が鳴ったとか。なぜ、あれだけ注意

を促しているのに……。一瞬にして、会場全体で作り上げていた時間が止まります。例会を心待ちにしてきて、楽しんでいた時間が壊されるのです。これまでも何回かそういうことがありました。その度に、悔しくて、役者さんに申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。いい舞台は、役者と観客が作るのだと痛感します。(男性)

▼開演後三十分程度芝居に入っただけで、このまま終わってしまったらどうしよう……。！と焦ってしまいました。しかし、だんだん台詞のテンポや展開に慣れてくると、ようやく心落ち着けて観ることができた。この作品は、松井須磨子という人物に対して共感できるかどうかは別にしても、とにかく栗原

小巻の凄さを感じる舞台だった。淀みのない台詞回し、劇中劇の演技力、歌の上手さ、軽やかな身のこなし、どれを取っても凄いなと思う。そういう意味では、栗原小巻という女優の圧倒的な存在感を感じ取るための芝居だったのかなと思う。今回は、松井須磨子の経歴を順に追った内容だったが、別の切り口で演じられるとどうだったのか、ということもふと考えた。(男性)





【七〇代】

▼楽しみにしていた栗原小巻さんの一人舞台、出て来た瞬間素敵、何かオーラを感じた。演じて、踊り（立ち姿がものすごく素敵でした）、歌つてと、一時間半。あれもう終わり、もう少し観たいと思いました。松井須磨子が演じた、人形の家・復活などなどを部分的に栗原小巻さんが演じているのを見て、もう少し長く観たかった。

▼「君死にたもうなかれ」の朗読、低い声で、あれ？栗原さんなの？と身をのり出しました。それから心配は全部吹つとび。素敵な笑顔も見られたし。「私は人間」

のセリフが何回か出て、新しい女像を強調した良い脚本だなと思った。（女性）

▼帰りの車の中で、栗原小巻さんの多芸さに感動し、そのパワーに、たいしたもんだ！たいしたもんだ！（男性）

▼日頃、足腰痛いと言っている私。栗原小巻さんの舞台上での表現、演技を観て感動するとともに、私ももう少し頑張らなくてはと思いました。（男性）

【年代・性別不明】

▼一時間半吸い込まれました。歌も立ち姿も全大女優の大舞台、感動涙々です。松井須磨子が写しだされたよう。

編集スタッフから

昨年从今年にかけての例会を思い返すとき、芝居を作る人たちはどれほどの思いと願いを込めて持ってきてくれたのだろうかと考えます。それにしっかりと応えるように記憶にとどめたいと思いました。